

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
4	川崎市立田島支援学校桜校	稲葉 武

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none">自分の気持ちが変わり、分かり合える経験を通して、自分を大切にできる力を育てる。基本的な生活習慣、基礎的な知識・技能を身につけ、自立して生きる力を育てる。人やもの、自然や社会とのかかわりを通して、共に生きる力を育てる。自ら考え決定する経験を通して、豊かに生きる力を育てる。自らの「からだ」と「感じる心」を大切にし、健やかに生きる力を育てる。	(基本理念)豊かな関わり合いを通して育ち合う学校 (教育課程編成)児童生徒の教育的ニーズに応える学校 (研究研修)学び続ける教職員集団の集う学校 (防犯・防災対策)児童生徒が安心して通学できる学校 (連携)保護者、職員、地域をはじめとする関係機関等と相互信頼と協働する学校	①コロナ禍により内容を変更していた教育活動の点検・見直し。教育課程の整理 ②学部長、主任の授業公開、授業研究の充実 ③学習段階表を有効に活用した授業の展開、小学部から中学部までの一貫した学習指導 ④保護者、地域への積極的な情報発信 ⑤安心安全な医ケア児への通学支援の実施 ⑥安心安全な配慮食の提供 ⑦GIGAスクール構想の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 コロナ禍により内容を変更していた教育活動の点検・見直し。教育課程の整理	①学習段階表の作成(継続) ②年間指導計画の見直し ③体力づくりの時間の見直し(体力づくり→体育へのスムーズな移行を目指す) ④単元打ち合わせ(次の学習内容等を検討、確認するための打ち合わせ)の時間の充実	【実現状況】 ①教育課程編成係が作業を進め、概ね完成に近づいている。 ②学習の連続性、系統性を重視した教科・領域の年間指導計画の作成に取り組んだ。 ③小学部、中学部の体力づくりの時間を曜日毎に入れ替えた。 ④月2回の開催とした。 【課題】 ①児童生徒の実態に応じて見直しが必要である。また、段階表の活用が十分なされていない。 ②教科担当で検討する時間が十分取れなかった。 ③次の学習への移行がスムーズになったが、曜日により開始時間が異なるため、生徒の混乱が見られた。 ④学習のねらいや支援の手立て等の話し合いを充実させる観点から、月の回数が妥当なのか検討が必要である。	①毎年updateする。また、有効性について情報を発信していく。学習の立案、実行、評価の根拠として引き続き活用する。 ②月例研究のテーマとして引き続き検討する。 ③毎日同じ時間(9:50)に開始する。体育館とグラウンドを小学部・中学部が交代で使用する。 ④より充実した打ち合わせとなるよう、毎週の設定とする。
2 学部長、主任の積極的な授業公開、授業研究の充実	各担当の授業を公開、研究協議会で授業研究	【実現状況】 ①小学部B課程においては体育(体操、プール学習)で授業(T1)を担当した。 ②研究授業を行う授業者に指導助言を行った。 【課題】 ①欠員等の補欠に入るため、学部長主任による定例の授業公開は難しい状況があった。 ②授業研究については、月例研究以外の研究時間の確保が課題である。	①級外の教員の力を借りるなど体制を整える。 ②諸会議の見直し(会議によっては隔月で行うなど)を行い、授業研究の時間を確保する。

3	<p>学習段階表を有効に活用した授業の展開、小学部から中学部までの一貫した学習指導</p>	<p>①年間指導計画の見直し、取りまとめ ②全体研修の運営、連絡 ③神知研の会議参加、資料作成、発表、集約 ④21研の会議参加、参加者集約、レポート作成</p>	<p>【実現状況】 ①月例協議会で系統性を意識した年間指導計画の見直しを行うことができた。 ②年間指導計画を作成する上で重要な点や各教科の考え方を研修で学ぶことができた。 ③業務担当や出張は桜校が行った。今年度はアーカイブ配信で行われたため参加しやすく、教員それぞれで知識を深める機会を作ることができた。 ④他校の教育実践を知ることができた。 【課題】 ①各学年・学部による連携が難しく、教科によって進行具合に差が出た。 ②年度の後半に研修会の予定が集中した。 ③会議、発表などの開催場所が遠く、担当教員の負担が大きかった。 ④初任者など新しく川崎に勤務する教員に、川崎市子どもの権利に関する条例を周知する機会が少なかった。</p>	<p>①各学年・学部の教科チーム同士での話し合いの時間を設定する。 ②年度初めに、必要な研修会の内容を話し合い設定していく。 ③桜校、田島校の研究部で隔年担当とする。(来年度は、田島校が担当する。) ④年度初めから川崎市子どもの権利に関する条例について触れる機会を多く作る。</p>
4	<p>保護者、地域への積極的な情報発信</p>	<p>①各種お知らせの定期的な発行 ②学部学年だよりの発行</p>	<p>【実現状況】 ①お知らせ(月行事予定、保健関係、学校説明会など)の内容や毎月の各学部の活動の様子の情報を発信することができた。 ②2週間ごとに中学部、小学部A課程は学部だよりを発行、小学部B課程は3学年に分かれての学年だよりを発行し、保護者へ学校での児童生徒の様子を文章や写真で伝えることができた。 【課題】 ①保護者、地域の情報発信という面では少しずつ充実していると思うが、学校としての情報発信も必要だと思う。</p>	<p>①・学校HPの有効活用 ・保護者全体会、授業参観、懇談会、面談等での保護者との情報共有。 ・学校行事(運動会、学習発表会、学校公開週間)等の地域の方々に学校へ足を運んでいただく機会を増やす。 ・地域教育会議、学校教育推進会議等、地域の方々と交えての会議等での発信</p>
5	<p>安心安全な医ケア児への通学支援の実施</p>	<p>①「医療的ケア通学支援」の運行開始までの校内での流れの構築 ②安全な運行に向けての各所との連携 ③安全かつ円滑な運行</p>	<p>【実現状況】 ①ガイドブックに沿い、書類整備、検討委員会の開催、バス係と連携してバスコース作成、試走、関係者打合せ、試乗を経て本格運行に向かう流れができた ②市教委、訪問看護ステーション、タクシー会社、保護者、学校が連携できた。 ③教員や養護教諭、看護師が同乗、細かい調整をし、安全な運行を行うことができている。 【課題】 ③運行上、児童によって学校到着の時刻が異なることや、電話連絡の流れなど、改善が必要な点がある。次年度以降も安全に運行を続けていくことが課題。</p>	<p>③次年度も各所と連携し、出てきた課題を共有し改善できるように協力体制をとっていく。</p>

6	安心安全な配慮食の提供	①つるりんこ、スベラカーゼを使用した給食の提供開始 ②配慮食対応委員会の実施 ③OTとの連携 ④給食室内での配慮食調理のマニュアル化 ⑤配慮食ガイドラインの運用開始	【実現状況】 ①食べやすい食事形態の給食が提供できるようになった。 ②配慮食対応委員会を行い情報共有ができた。 ③栄養教諭とOTが連携し、給食時間の巡回を実施した。 ④配慮食調理をマニュアル化した。 ⑤摂食嚥下機能記録表を作成した。 【課題】 ③保護者の希望形態と安全な形態の相違がある。 ④胃ろう注入食の加水方法について課題が残った。 ⑤個別指導計画(評価シート)への記入時期と、内容の確認、申請書と決定通知書を見直す必要がある。	③専門職を含めた面談や動画の共有による丁寧な説明を行う。また、給食の安全に関する主治医へ説明したり、学校医からの助言を得る。 ④現在栄養職員が加水を実施している。栄養職員が不在時の加水方法について検討していく必要がある。 ⑤次年度当初に教職員に周知できるように、関係者で検討、確認を行う。
7	GIGAスクール構想の推進	①GIGA端末を活用した学習方法の提案及び研修会 ②地域の学校のGIGA端末を使用した公開授業の参加 ③GIGA支援員による教材作成 ④指導主事訪問によるGIGA端末の活用状況及び今後の課題の相談及び共有	【実現状況】 ①長期休業前にミライシードの操作方法と実践事例の研修会を実施した。 ②支援級のGIGA端末を使った授業実践を見学した。 ③GIGA支援員に来校を依頼し、事務作業や教材作成を依頼した。 ④児童生徒がGIGA端末を使って授業に参加している場面が少ない事、長期休みにGIGA端末を家庭に持って帰る事例が少数である事等の課題を相談、共有した。 【課題】 ①研修の内容を普段の授業で活かす。 ②新入生と在校生のGIGA端末の経験に差がある。 ③GIGA支援員さんの更なる活用の検討をする。 ④教職員の技術、知識、経験の向上。	①②④学習指導部や教育課程編成と連携しながらGIGA端末を使った学習や活動を増やしていく。桜校と田島校で連携しながら各校の現状と課題を共有したりお互いの授業を見学をしていく。GIGA端末を使った授業実践を研究し、活用方法を検討していく 教職員が積極的にGIGA端末を使用し、活用の幅を広げていく。積極的に研修を受ける。 特別支援学校に適したGIGA端末を活用した具体的な実践例を紹介していく。 ③GIGA端末を活用する場面を想定し、GIGA支援員への依頼を計画的に行っていく。
8	教職員の働き方改革	①ICTの積極的な活用、ペーパーレス化 ②業務内容の見直し ③勤務管理	【実現状況】 ①打ち合わせや会議等でipadの活用、ペーパーレス化が進んだ。Logoフォームを活用したアンケートの実施、集計を行った。 ②分掌・委員会業務は各種反省を受け、年度内に次年度の計画の骨子を立てることにより、円滑に引継ぎができるようにした。 ③時間外在校等在校時間が多い教員との面談、改善検討を行った。 【課題】 ②③欠員等による業務を在籍する教員が補っている。	②③教職員一人ひとりの力量の向上、一定の質を維持したうえで、効率的な業務遂行力を身に付けさせていく。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
本校の教育活動や学校運営・安全の取り組みについて、保護者・教職員へのアンケートを行い、学校教育推進会議においても報告を行った。今回のアンケートの結果は肯定的な意見が概ね8割以上であった。学校が児童生徒一人ひとりの学びを大切にしている活動の継続が教育の連続性と捉えることができるという視点を持つこと。コロナ後、地域と保護者が関わることを推進し共生する社会の実現を目指すよう努めてほしいなどの意見を頂けた。	学習指導要領の視点をもって授業改善を図るとともに、小学部、中学部、高等部のつながりや連続性、系統性ある教育課程づくりに取り組んだ。また、今年度は、医療的ケア児への通学支援及び、市内統一の配慮食の提供が始まった。来年度以降も防犯・防災を含めマニュアルの制度を上げるなど、児童生徒にとって安心安全な環境を整えていくことが重要であると考えられる。また、保護者や地域社会の理解を得るために、引き続き情報を可視化、発信し共有していくことも次年度の取り組みの一つと考えられる。